

ウイグル語におけるアスペクトを表す形式 "-(i)wat-" がつく動詞の種類

藤家洋昭 (大阪大学) Reyihan Pataer (甲南女子大学)

1. はじめに

ウイグル語 (Uyghur Tili) は、基本語順が SOV (主語-目的語-述語) で、形態的にはこう着語に分類できる言語である。

ウイグル語のアスペクトを表す方法のひとつに、「動詞語幹+(i)wat-」という形によるものがある。この形は、日本語に訳したとき「～(し)ている」という訳になることが多い。

一般的に、動詞が持っている意味の違いが統語的な違いとなつてあらわれることがある。例えば、いわゆる状態動詞は、日本では「テイル」がつかず、英語では進行形にならない *be resembling, *be knowing [3][5][7]。この、動詞の意味の違いによる統語的な違いのあらわれ方は、言語によって異なる。たとえば、ウイグル語と系統を同じくするトルコ語にも進行形と呼ばれることがある [4] -iyor という形があるが、この形は、広くいろいろな動詞につくことができ、benziyor「似ている」、biliyor「知っている」などということができる。つまり、この点において、英語とは、進行形になるかならないかという点で異なる。この場合、英語の動詞とトルコ語の動詞、英語の進行形とトルコ語の進行形のいずれか、あるいは両方が異なっていることが考えられる。

ウイグル語において、どのような動詞に -(i)wat- がつくことができるのか、すべての動詞に -(i)wat- がつくことができるのか、あるいはつく

ことのできない動詞があるのか、という問題は大変興味深いが、まったくといっていいほど明らかにされていない。

そこで本研究では、ウイグル語において、どのような動詞に -(i)wat- がつくことができるかを、動詞が持っている意味にもとづいて記述する。

2. -(i)wat-

-(i)wat- を用いた表現は、「動詞語幹+(i)wat+人称」という形をとる。動詞語幹の最終音によって -(i)wat- の (i) の部分が変わり、実際には -wat- ~ -iwat- ~ -üwat- ~ -uwat- という形になる。

ウイグル語についてのこれまでの研究 [1][2][8] では、-(i)wat- について、次のように記述している。動作を進行中のものとしてとらえる [8]、発話時に起こっているあるいは続いている動作または発話時に動作が存在する状況を表す [1]、動作がずっと継続しているあるいは状況が存在することを表す [2]。-(i)wat- と組み合わさる動詞の種類については関心が持たれなかったように見受けられ、この問題に触れた先行研究は筆者の知る限りほとんどない。

2. 動詞分類

どのような動詞と -(i)wat- が結びつくかを考える際には動詞分類が必要になる。本研究では、LCS (=Lexical Conceptual Structure: 語彙概念構造) にもとづいて動詞を分類した。それぞれの動詞がどのような LCS を持つ

かを見分けるために時間を表す修飾語句によるテストをおこなった。

2.1 LCS

LCS は研究者によってさまざまなバリエーションが見られるが、本研究では先行研究[5]を参考に次のようなものを用いた。

[[BE AT-[]]]

[BECOME [[BE AT-[]]]]

[[ACT]]

[[ACT ON-[]]]

[[CAUSE [BECOME [[BE AT-[]]]]]

本研究では、これらを、それぞれ、状態動詞 ([[BE AT-[]]])、変化自動詞 ([BECOME [[BE AT-[]]])、活動自動詞 ([[ACT]])、活動他動詞 ([[ACT ON-[]]])、変化他動詞 ([[CAUSE [BECOME [[BE AT-[]]]]]) と呼ぶことにする。

これらを見分けるために、①現在形が現在の事態を表すか、②時間を表す副詞的修飾語がどのようにつくか、という方法を用いた。すなわち、現在形が現在の事態を表せば状態動詞、現在の事態を表さなければ状態動詞以外である。ウイグル語については、「動詞語幹+i/y+人称」の形を現在形と呼ぶことにする。変化動詞・活動動詞の現在形は、「習慣」あるいは「宣言」の解釈になる[6]。例えば、英語の I drink、日本語の「私は飲みます」は、習慣あるいは宣言を表す[6]。状態動詞以外では、1 saette 「1 時間で」、10 minutta 「10 分で」、3 künde 「3 日で」などのような時間を表す副詞的修飾語句と共起すれば変化動詞、1 saet 「1 時間」、10 minut 「10 分 (間)」 3 kün 「3 日 (間)」などのような時間を表す副詞的修飾語句と共起すれば活動動詞 (自動詞、他動詞とも) である。つまり、これらの副詞的修飾語句は、意味的に

LCS の中の述語を修飾すると考える。具体的には、1 saette 「1 時間で」、10 minutta 「10 分で」、3 künde 「3 日で」などは LCS の中の BECOME を、1 saet 「1 時間」 10 minut 「10 分」 3 kün 「3 日」などは LCS の中の ACT を修飾すると考える。修飾される述語が LCS の中に存在しないとき、その表現は非文になる。

注意しなければならないのは、いわゆる多義性で、一つの動詞が一つのグループだけに属するとは限らないことである。例えば日本語では「ハンドルをにぎる」の「にぎる」と、「すしをにぎる」の「にぎる」は別グループに属する[5]。

3. データと考察

以上をもとに、ウイグル語の動詞と -(i)wat- の結びつきを見ると次のようになる。

3.1 状態動詞

このグループには、bil- 「知っている」 oltur- 「住んでいる」、oxsha- 「似ている」等 が入る。

現在形は現在の解釈になる。

(1) Tursun dadisigha oxshaydu.

トルスン (人名)・彼の父に・似る (現在) 「トルスは父親に似ている」

基本的に -(i)wat- がつかない。

(2) *Tursun dadisigha oxshawatidu.

トルスン (人名)・彼の父に・似る (-i)wat-

3.2 変化自動詞

このグループには、éri- 「溶ける」、tongla- 「凍る」、tüge- 「終わる」、yet- 「達する」、yoqal- 「なくなる」等 が入る。

3 künde 「3 日で」等と共起する。

(3) Yaqqa qar 3 künde éridi.

降った・雪・3・日で・とける (過去) 「降った雪が3日でとけた。」

現在形は現在を表さず習慣または宣言を表す。

(4) Her yil baharda qar ériydu.

毎・年・春に・雪・とける (現在)

「毎年春に雪がとける」

-(i)wat- がつくが、日本語の「変化自動詞+ている」のような変化の結果を表すわけではないので注意が必要である。

(5) Qar ériwatidu.

雪・とける(-(i)wat-) 「雪がとけていく (とけつつある)」

3.3 活動自動詞

このグループには、angla-「聞く」、dem al-「休憩する」、kül-「笑う」、uxla-「眠る」、yighla-「泣く」、yügür-「走る」等が入る。

1 saet 「1時間」等と共起する。

(6) Tursun 1 saet yügürdi.

トルスン (人名)・1・時間・走る (過去) 「トルスは1時間走った。」

現在形は現在を表さず習慣または宣言を表す。

(7) Hazir yügürimen.

今・走る (現在) 「今走ります。

(まだ走っていない。これから走るという宣言)」

-(i)wat-がつく

(8) Tursun yataqta uxlawatidu.

トルスン・寮で・眠る(-(i)wat-) 「トルスは寮で眠っている。」

3.4 活動他動詞

このグループには、itter-「押す」、tart-「引く」、tep-「蹴る」、ur-「たたく」等が入る。

10 minut 「10分間」等と共起する。

(9) Tursun 10 minut harwini tartti.

トルスン・10・分・クルマを・引く (過去) 「トルスが10分間クルマを引いた。」

現在形は現在を表さず習慣または宣言を表す。

(10) Tursun harwini tartidu.

トルスン・クルマを・引く (現在)

「トルスはクルマを引く。」

-(i)wat-がつく

(11) Tursun harwini tartiwatidu.

トルスン・クルマを・引く(-(i)wat-)

「トルスがクルマを引いている。」

3.5 変化他動詞

このグループには、bil-「わかる、理解する」、buz-「こわす」、kes-「切る」、sal-「家などを建てる」、yoqat-「失う」が入る。

10 minutta 「10分」等と共起する。

(12) Tursun 10 minutta derexni kesti.

トルスン (人名)・10・分で・木を・切る (過去) 「トルスは10分で木を切った。」

現在形は現在を表さず習慣または宣言を表す。

(13) Hazir derexni késimen.

今・木を・切る (現在) 「今木を切ります。」

-(i)wat-がつく

(14) Tursun derexni késiwatidu.

トルスン・木を・切る(-(i)wat-) 「トルスは木を切っている。」

3.6 -(i)wat-と過去形

-(i)wat- と過去形の関係についてもみておく。

日本語の「テイル」形は、過去形との関係で、活動動詞と変化動詞は対照的な性質を示す。活動動詞は、「テイル」形が成り立つと同時に過去形が成り立つ[6]。例えば、「カートを押している」ということは「カートを押した」ということにもなる。ところが変化動詞は、「テイル」形が成り立つときに過去形が成り立つわけではない[6]。例えば、「家を建てている」ということが「家を建てた」ことにはならず、家が完成しなければ「家を建てた」ことにならない。ウイグル語において、-(i)wat-と過去

形の関係についてみておく。

3.6.1 活動動詞

(15) (=11) Tursun harwini tartiwatidu.

トルスン・クルマを・引く (-i)wat-

「トルスンがクルマを引いている。」

が成り立つとき

(16) Tursun harwini tartti.

トルスン・クルマを・引く (過去)

「トルスンがクルマを引いた。」が成

り立つ。

3.6.2 変化動詞

(17) Tursun öyni séliwatidu.

トルスン (人名)・家を・建てる

(-i)wat- 「トルスンは家を建てて

いる。」が成り立つとき

(18) Tursun öyni saldi.

トルスン・家を・建てる (過去) 「トル

ルスンは家を建てた。」が成り立たない。

い。

3.6.3 まとめ

以上のことから、ウイグル語においても -i)wat- と過去形の間、日本語の「テイル」形と過去形の間に見られるのと同様の関係があることが明らかになった。

4. 結論

本研究で明らかになったことは次のとおりである。

ウイグル語におけるアスペクトを表す形式 -i)wat- は、活動動詞、変化動詞にはつくが、状態動詞につかない。

変化自動詞についた場合、変化の結果状態の残存を意味しない。

活動動詞に -i)wat- がついたときは、過去形も同時に成り立つ。変化動詞に -i)wat- がついたときは過去形が同時に成り立たない。

参考文献

[1] Arslan Abdulla (ed.). (2010).

Hazirqi Zaman Uyghur Tili. Ürümchi. Shinjang Xelq Neshriyati.

[2] Arziyev R. (2006). *Uyghur Tili*. Almuta. Mektep.

[3] Vendler Z. (1957). Verbs and Times. *The Philosophical Review* 66. Reprinted in *Linguistics in Philosophy*.

[4] 大川博 (2010) 『ニューエクスプレストルコ語』 白水社.

[5] 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』 くろしお出版.

[6] 影山太郎 (編) (2009) 『日英対照形容詞・副詞の意味と構文』 大修館書店.

[7] 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」 『言語研究』 15.

[8] 竹内和夫 (1991) 『現代ウイグル語四週間』 大学書林.